〈編集後記〉

感謝の言葉によせて

特集記事「環境教育」　編集後記には，執筆者の紹介，依頼原稿執筆者への謝辞，編集状況，折々の主要話題関連の論説等々を記すのが常道である。ＫＯＮＣ会報には原稿料が無いため，依頼原稿執筆者に対する謝辞は欠かせない。会報18巻１号では，依頼原稿による特集記事，「自然保護の背景としての環境教育」を掲載したが，貴重な原稿を頂いた諸先生方には，未だ感謝の意を表さないまま今日に至っている。事情が無かったわけではないとはいえ，編集方としてこの非礼をお詫びし，ここに改めてご寄稿頂いた鈴木善次，芹沢俊介，渡辺隆一，本田悦義，布谷知夫の５先生に感謝します。また，企画段階で助言とご支援を賜った長田芳和先生に感謝致します。５論文に述べられているように，環境教育の最終目標は，環境問題を解決し，かつ未然に防止するための人間を育成することであるとされている。さらには，それを可能にする，新たな社会を創造することにあるとされている。神戸で起こった痛ましい事件などに見られる昨今の状況は，環境教育の理想とする状況にほど遠いかも知れないが，目標への持続的努力しか我々の道はあるまい。関連努力の一環として，本機構は自然保護教育セミナーを毎年実施している。昨年度のセミナーで発表された論文の中から，２論文を本号で掲載した。

表紙の写真と原画　会報の表紙は，今回も鮮やかな写真となっている。表紙のカラー化は1993年の15巻１号に遡るが，前編集責任者の山岸哲先生のご努力の賜である。表紙のカラー写真や絵は専門家によるものが多いが，これらの貴重な写真や原画は無償で借用をお願いしたものばかりである。これまでにご無理をお願いした，内田博，池原貞雄，今森光彦，琵琶湖文化館，河野昭一，国際航業，岩本久則，宮崎学，長谷川博の諸先生および諸機関に深く感謝致します。財政難を抱えるＫＯＮＣにすこし贅沢ではないかと感じられる方もおられるかも知れないが，前編集責任者が発備された状況が変わらない限り，表紙カラー化を継続したいと思う。

会報の充実のために　本号にある３編の原著論文は，本機構がこれまでに行ってきた研究助成および見学会から生まれた。原著論文は会報を充実させ，本機構を発展させる手段として重要であり，編集方に課された任務は小さくはない。このため，会員諸氏に積極的投稿をお願いしたい。論文の内容は自然保護そのものを論じたものに限らず，自然保護の基礎として重要な多様な生物の生活史や自然誌一般について論じたものであれば，積極的に掲載したい。ＫＯＮＣのＮはNatural historyと解すことも可能である。理事会と編集委員会の議を経る必要があるが，欧文論文も掲載したい。また，会員の近況などを紹介する「交流の広場」欄のような新たな寄稿分野も設定したい。

本号の構成　表紙の言葉の長谷川博先生（東邦大学理学部）のご専門は動物生態学，特に海洋生態学である。急なお願いにも関わらず，快くお引き受け頂いた。本機構理事の武田明正先生には，長年フィールドとされている大台ケ原からのメッセージを頂いた。本機構会員の西海功・有水さやか，服部昭尚，山本和彦諸氏の原著論文の由来は，既に記したとおりである。セミナーの特集記事は紀平肇，有馬忠雄の両氏にお願いした。北元敏夫・山崎一夫氏の論文も環境教育に関連している。村田源，四手井綱英両先生の活発な執筆活動は，いつも会報を支えている。これら執筆者の方々に感謝致します。大幅に遅れていた会報の印刷時期を少しでも正常化するため，事務局長島，土倉事務所遊磨両嬢は大車輌のご活躍であった。

（山倉拓夫）